中国の貧困地域における幼児の発達を促進する国の政策解析

―実証研究を基づいて―

華東師範大学教育学部学前教育学科

周　念麗

資料翻訳：王　林鋒

目次

1. 特定概念の解釈：広域な貧困地帯の意味
2. 国家政策の説明：関連政策及び実施の特徴
3. 政策実施の徹底：山村幼児園の業績の検定
4. 政策推進の提案：人文経済視野のモデル化

特定概念の解釈:

広域な貧困地帯の意味

広域な貧困地帯：

民生発展指数下位10名

広域な貧困地帯について

農民の一人当たりの年収入2676元、全国平均の50%

0-3歳児の入園率（早期教育機関）： 5%

3-6歳児の平均入園率:25%

国家政策の説明:
関連政策及び実施の特徴

国家政策の具体案

《国家中長期教育改革及び発展計画綱要2010－2020年》

“農村の就学前教育を重点的に発展させる。

農村の就学前教育の普及を広げる。

留守児童の入園を確保する。”

“貧困地域の就学前教育への支援”を強調する

重要な関連文献

『国務院による就学前教育の発展に関する意見』

（国発〔2010〕41号）、

『第二期就学前教育三年行動計画の実施に関する意見』

（教育部、国家発展改革委及び財政部連合印発，2014）

文献の趣旨

就学前教育の発展が社会主義和諧社会を目指すための**重大な民生課題**と強調され、重要な政府議事日程に入れられる。

就学前教育は**公益性と普恵性**（普遍実益性）を図るべきである。都市・農村のバランスを取る合理的な就学前教育体系を作り、適齢児が質のよい就学前教育を受けられるようにする。辺境の貧困地域や少数民族地域の就学前教育の発展を支援し、留守児童の入園を確保する。

特に**農村の就学前教育の資源を拡大し、広域貧困地帯、少数民族地域、留守児童集中地域の資源欠如の問題解決に力を入れることを示した。**

重要文献及び実施

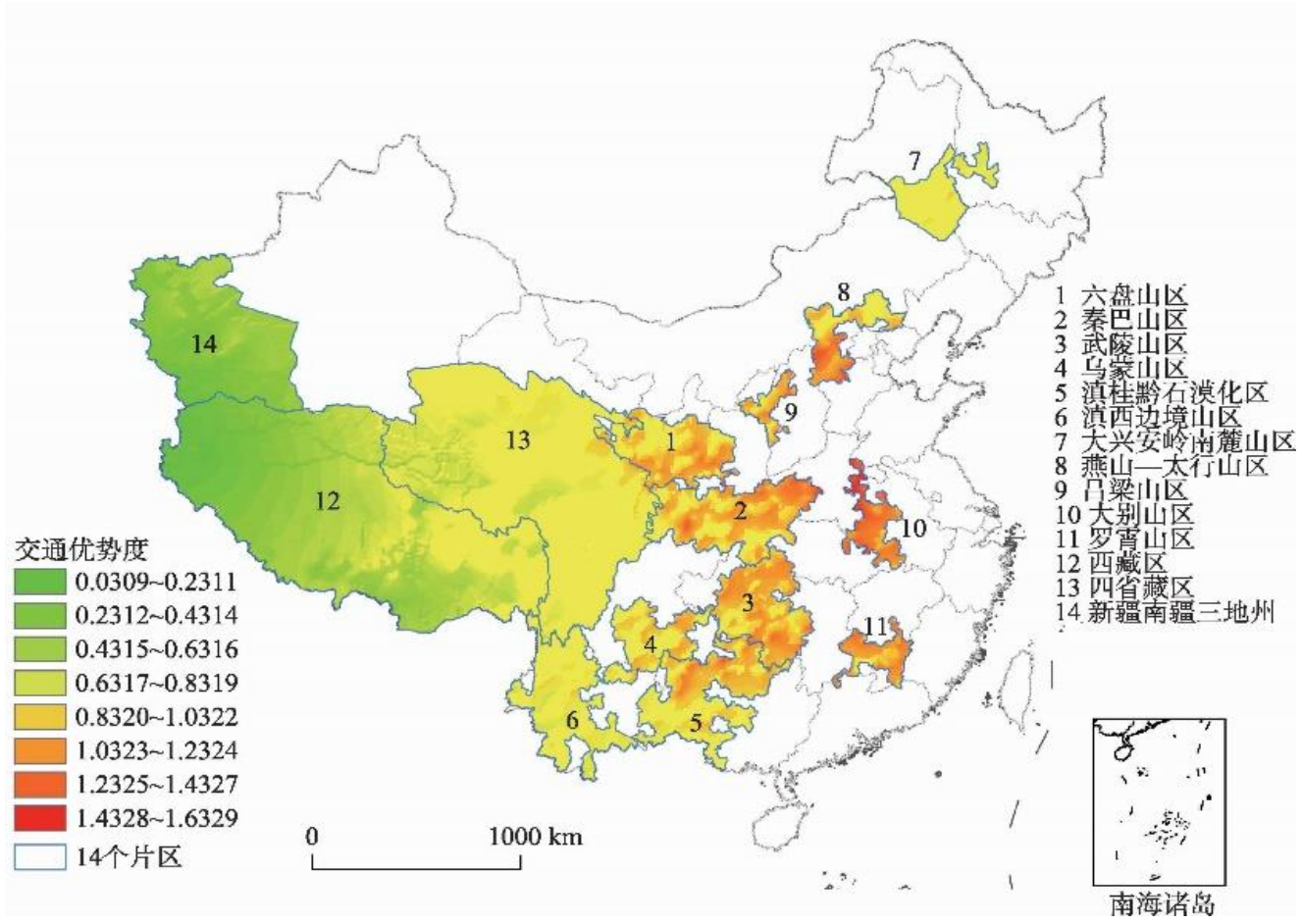
財政部、教育部による就学前教育への財政支援増加の通知（財教[2011]405号）“就学前教育の発展のための財政支援の重要性と緊迫性を十分に認識した”;そして、“就学前教育の発展のための支援は公財政の重要な責任である”と表明した。同時に、**中西部地域農村の就学前教育**を重点的に支持し、家庭経済力の困難な児童、都市に出稼ぎにいく労働者の連れる子ども及び農村に残される留守児童を支援することを示した。http://www.lijingao.com/cacnew/201109/1315072796.htm

重要文献及び実施

2015年、中央財政は就学前教育発展資金150億元を支出した。地方が**新設、拡大、買収**を行い、また、**辺鄙農村地域で巡回式教育事業を支援する実験校を設置する**などの方法を通じて、就学前教育の資源の充実、幼児支援制度の完備、家庭経済力が困難な幼児、孤児、障害を持つ子どもへの援助に努める。

政策実施の徹底：
山村幼児園の業績の検証

広域な貧困地帯の交通有利度（利便性）



交通有利度からわかったこと

“特定貧困扶助”、“特定知恵扶助”の難度が高い。

従って中国の現実を見据えて政策を実施すべきである。

意味のある探索：山村幼児園を作りましょう！

中国国務院発展研究基金会の探索

国家情勢をふまえ、貧困地域の多くの子どもに、適切な時期に就学前教育を受けさせるため、比較的少ない投資で多くの地域をカバーできる方法を考えるべきである。2009年9月から、青海省楽都県が率先し、山村幼児園プロジェクトが始まった。このプロジェクトは、空いている校舎を使って、幼児教育に従事するボランティアを公募した。村ごとに、3-7名の幼児に就学前教育を提供した。これまでに、全国貧困地帯の8個省、10個県に山村幼児園が設置され、1万8千名の適齢児童が人園した。

調査対象者

地域	年齢　歳	山村幼児園幼児	都市幼児園幼児	散居する幼児
青海省	4～5	30（男、女半々）	30（男、女半々）	0
楽都県	5～6	30（男、女半々）	30（男、女半々）	0
山西省	4～5	30（男、女半々）	30（男、女半々）	0
興県	5～6	30（男、女半々）	30（男、女半々）	0
貴州省	4～5	30（男、女半々）	30（男、女半々）	33（男11、女22）
松桃県	5～6	30（男、女半々）	30（男、女各半）	13（男 6、女 7）

評価ツール

形成的評価：幼児の遊び行為（構成遊びとごっこ遊び）、

幼児の絵画の分析

総括的評価：保護者への質問紙調査及び心理測定

（DDST、新版発展測定、4-7歳向けウェクスラー式検査）

統計分析： SPSS17.0を用いて、有意差検定

研究結果1：心理評価
（青海省楽都県４－５歳山村幼児園を事例に）

測定領域	山村 N=30	都市 N=30	山村	都市
	M	M	SD	SD
言語	5.93*	5.63	0.18	0.60
行動	3.87	3.80	0.43	0.65
認知	4.33	4.90	1.53	1.22
社会性	6.70	6.47	0.64	0.81
情緒	38.50*	35.40	6.45	7.21

*$p<.05$ **$p<.01$ ***$p<.001$

研究結果1：心理評価

（青海省楽都県４－５歳山村幼児園を事例に）

山村の幼児は都市の幼児より、言語、社会性発達の平均値がわずかに高い；行動発達が両者ほぼ同じ；認知の平均値が都市の幼児よりはるかに低い

研究結果2：遊び観察分析

（青海省楽都県4－5歳山村幼児園を事例に）

		組み立て遊び				扮装遊び			
分類	下位数	山村 N=30		都市 N=30		山村 N=30		都市 N=30	
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
情緒	積極的	15.60	2.24	15.77	0.76	15.57	2.23	15.43	0.92
視線焦点	物	14.33**	2.77	11.23	4.05	14.33**	3.03	12.40	2.70
	仲間	1.40	1.33	4.50***	3.70	2.53	2.50	2.77	1.73
	成人	2.23	2.03	2.03	1.22	1.28	1.20	2.67**	2.23
人間関係	発する	1.16	1.16	1.11	0.91	1.67	2.04	1.31	0.91
	受ける	0.40	0.20	0.30	0.10	0.60	0.33	0.50	0.23
行為	積極的	0.07	0.25	0.03	0.18	0.90	0.94	0.57	0.84
	消極的	0.00	0.00	0.07	0.36	0.17	0.45	1.60***	1.65
遊び	参加度	15.67	1.97	15.63	1.22	16.97	1.14	15.23	2.14

*$p<.05$ **$p<.01$ ***$p<.001$

研究結果2：遊び観察分析

（青海省楽都県４－５歳山村幼児園を事例に）

情緒表現：いずれの遊びにおいても、山村の幼児と都市の幼児はほぼ最初から最後まで積極的な情緒が現れた。視線焦点：いずれの遊びにおいても、山村の幼児が都市の幼児より玩具に視線を向ける回数がはるかに高く、一方で、人に視線を向ける平均回数が低い。仲間に向ける回数に有意差あり。

人間関係：ごっこ遊びにおいて、自主的に行為を行った平均回数が、都市の幼児より山村の幼児が高い。いずれの遊びにおいても、行為に応じた回数も都市の幼児より山村の幼児がわずかに高い

行為：積極的な行為は共有、助け合いなどであり、消極的な行為は、奪い、喧嘩などである。表１１の通り、積極的な行為が都市幼児のより山村の幼児がわずかに多い一方、消極的な行為が都市の幼児より山村の幼児がはるかに少なく、有意差あり（$p<.001$）。

研究結果2：遊び観察分析

（青海省楽都県4－6歳山村幼児園を事例に）

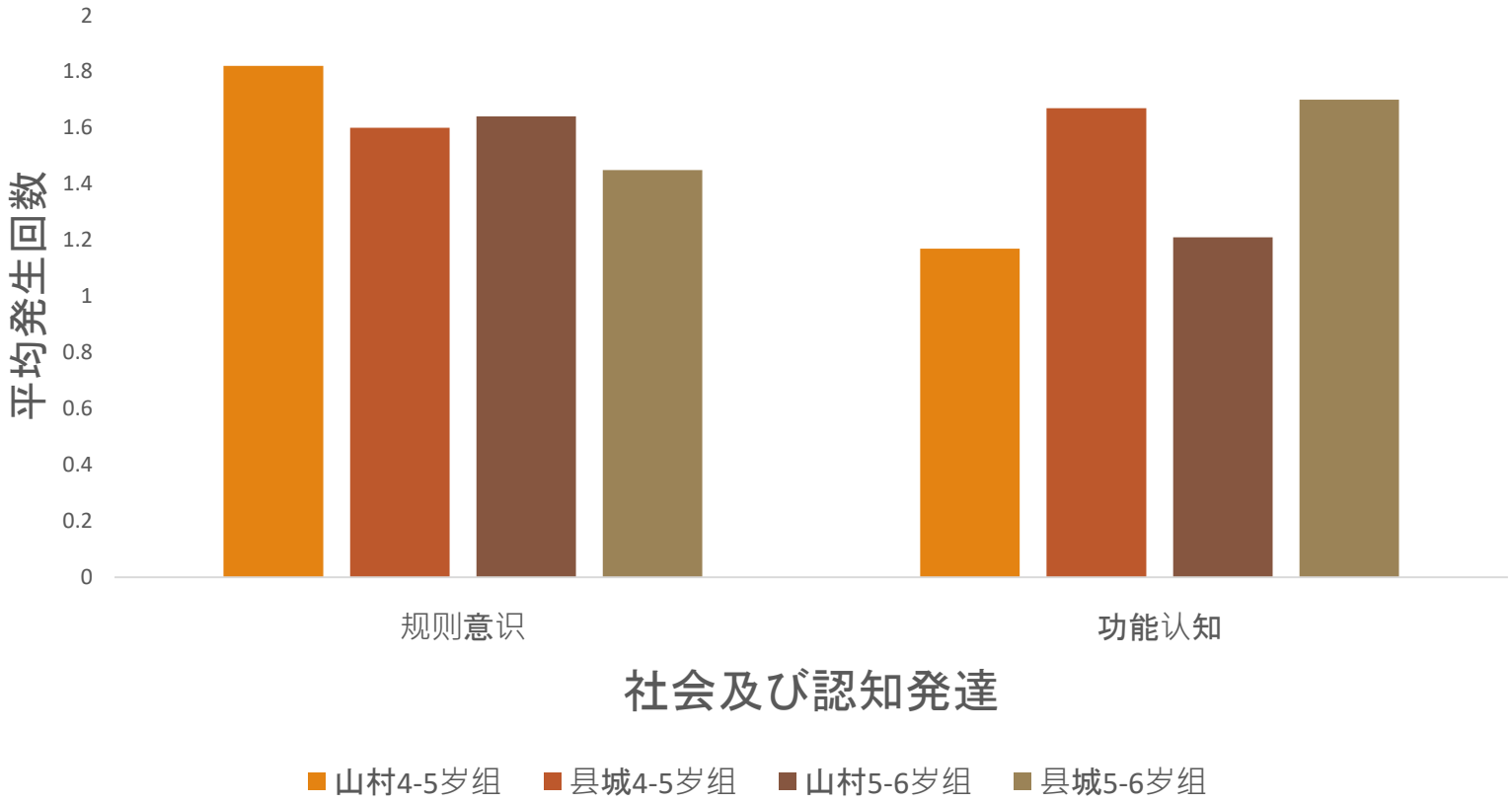


図1 楽都県山村及び都市 4～6歳幼児遊び活動における規則意識及び玩具機能認知の比較

研究結果2：遊び観察分析

（青海省楽都県４－６歳山村幼児園を事例に）

待つ、交替するなどの行為に見られる規則意識の平均回数が、両方の年齢層で都市幼児より山村の幼児が高く、4～5歳で山村の幼児が都市の幼児より高かった($p<.05$)；

一方、両方の年齢層で、山村の幼児が玩具の機能認知が都市の幼児よりはるかに低かった。

研究結果2：遊び結果総括

三つの地域で、山村の幼児が遊び活動に積極的に参加し、主動的に人間関係を作り、規則意識や対人関係の積極的な対応をしていた（平均回数が都市の幼児より高く、分散して住む幼児よりはるかに高かった）。一方、玩具機能の正確な認知回数は、山村の幼児は都市の幼児よりわずかに低く、分散して住む幼児よりはるかに高かった。

研究結果3：絵の観察分析

（青海省楽都県４－５歳山村幼児園を事例に）

絵の内容

本研究は「うれしい」と「悲しい」という二つの心理感情を設定し、幼児に自由に絵を描かせ、幼児の日常経験の感知や表現力を検討した。幼児の絵に、「人から情が生まれる」傾向が現れており、うれしいことと悲しいことに関連するタスクを分類した。人物関係図は、父母、仲間、自分と幼児園で構成された。

研究結果3：絵の観察分析

（三つの地域における4－5歳山村幼児園を事例に）

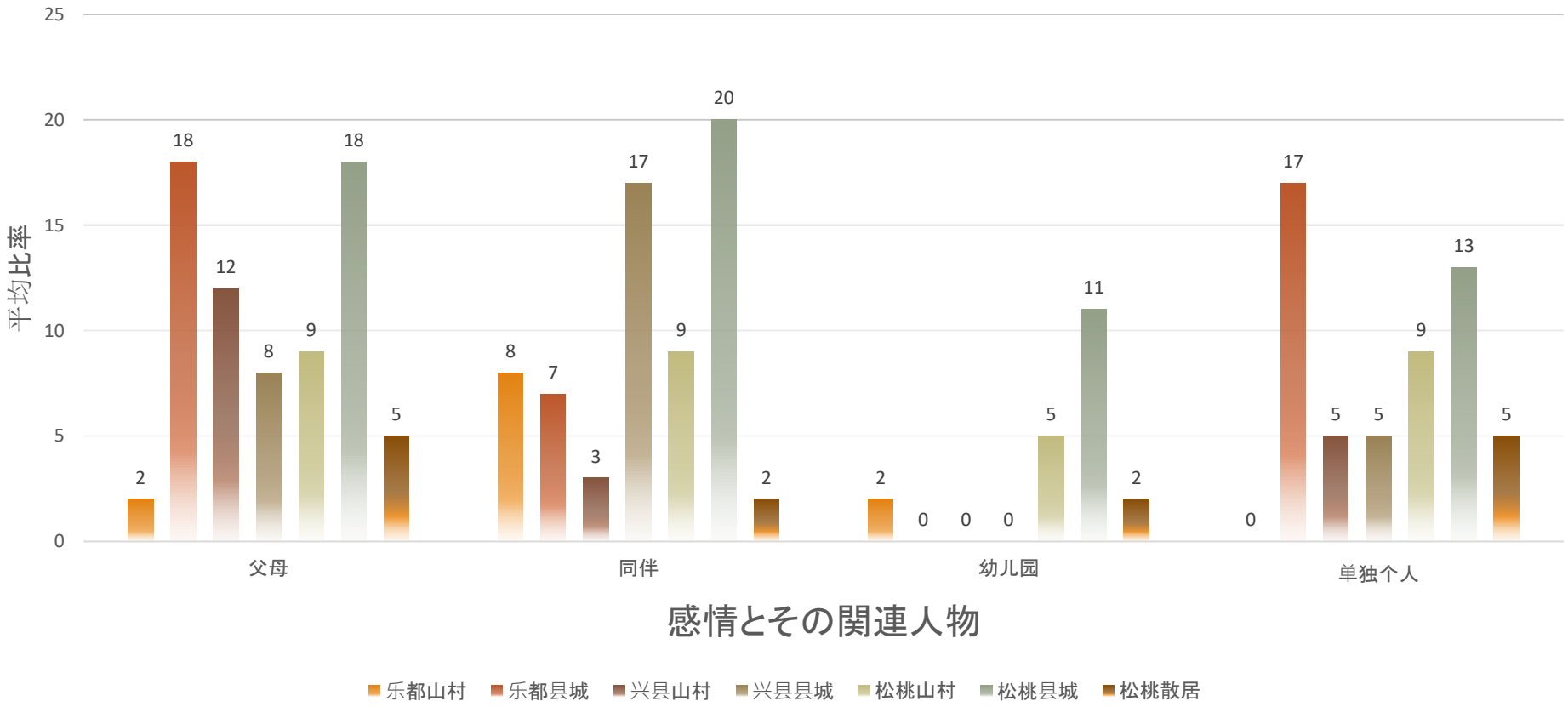


図2　三つの地域における4～5歳児の絵から感情と関連人物関係の比例

研究結果3：絵の観察分析

（三つの地域における４－５歳山村幼児園を事例に）

三つの地域における山村の幼児が、日常生活の経験において人間関係が乏しいことが絵から伺えた。

楽都県では、二種類の年齢層でみると、山村の幼児で父母が悲喜を引き起こした比率が2%と0%であった。一方、都市の幼児はそれぞれの比率が18%と35%であった。また、仲間と幼児園に関する比率が0%～8%であった。

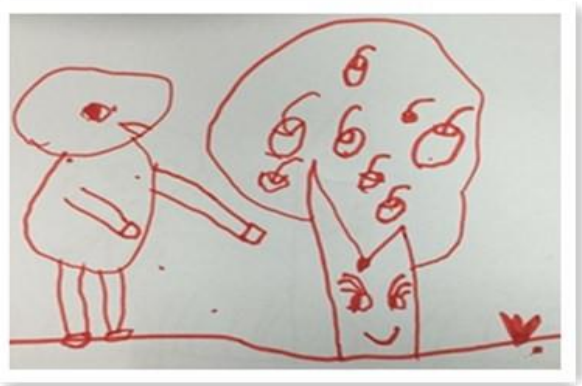
興県では、山村の幼児で父母が悲喜を引き起こした比率が最も高かったが、31%の比率を示した松桃県の都市の幼児よりも低かった。また、仲間が悲喜を引き起こした比率が33%に達して、他の地域の山村幼児よりはるかに高かった。

松桃県では、山村の幼児が父母・仲間・幼児園がそれぞれ悲喜を引き起こした比率が2%～10%の範囲内に留まったが、都市の幼児では父母の比率が33%に上った。

研究結果3：絵の観察分析

山村幼儿作品

①为贵州松桃5~6岁
②为山西兴县5~6岁



县城幼儿作品

③为山西兴县5~6岁
④为青海乐都5~6岁

散居幼儿作品

⑤⑥为散居5~6岁幼儿作品

図3　「うれしい」テーマの幼児作品の比較

研究結果3：絵の観察分析

山村の幼児の作品：暖色を好む傾向が見られた。先にお見せした作品からも伺えた。山村の幼児の、うれしい、明るい、積極的、楽観的という心理傾向が現れた。

また、山村の幼児は、細かいところへ注目し描いていた。細かいところとは、例えば、表情、服飾、色彩の修飾である。その中でも、まつげや花びらが精緻化してない部分があったが、描いた人の具体像が高度な水準に達しており、細部の修飾能力も高いことが伺われた。それは、幼児の実際の水準を示していた。絵の美観や衡平は、絵を描く能力を示したものだけではなく、幼児の観察力、絵に対する興味、忍耐力といった学びの質を総合的に表したものである。

都市の幼児の作品：地域ごとに色選びには全く異なる傾向が見られた。楽都県都市幼児が単色を好み、興県都市幼児が豊富な色を使う。全体的に見れば、都市幼児が山村幼児より描いた人の具体像の比率が高いが、背景にはおおざっぱな輪郭を描く傾向が見られた。作品図③のように、人の具体像を描いたが修飾がほぼない。修飾性と言えば、模式化した環境の修飾と留まった。後で修飾の比較を詳しく分析する。

分散して住む幼児の作品：お見せした二つの作品は選ばれたベスト作品とも言える。細部の描きは人物表情とポニーテールのみであった。単一な画風以外には、幼児が自分が何を描いたかと説明できなかった。主題と無関係な絵の比率が高い。

考察1：山村の幼児の強み

行動と社会性の領域においては、比較的に良い結果を得た:

山村幼児園の設立は、健康な運動理念と健康教育活動を幼児に提供し、運動や遊びの機会を与えた。

“幼児教諭アタッチメント”を補う可能性

考察2：山村幼児の弱み

言語と認知領域においては、薄弱；

言語領域：不利な家庭環境、

山村幼児の多くは、文盲や小卒の祖父母に育てられる、

山村幼児園に適切な教材が不足；

認知領域：不利な家庭要素、幼児園教諭の資質が低い、活動が不足。

結論

本研究は、山村幼児園の設立が短いものの、独特な生命力を持つことを示した。

但し、経済投資などの問題があり、教諭の資質養成や課程設計が十分でないことが示唆された。

政策推進の提案:
人文経済視野のモデル化

マクロな視点から広域な貧困地帯の山村を明確にする;

幼児園資金投入モデル:

計量経済学整合性モデル（integrated model）

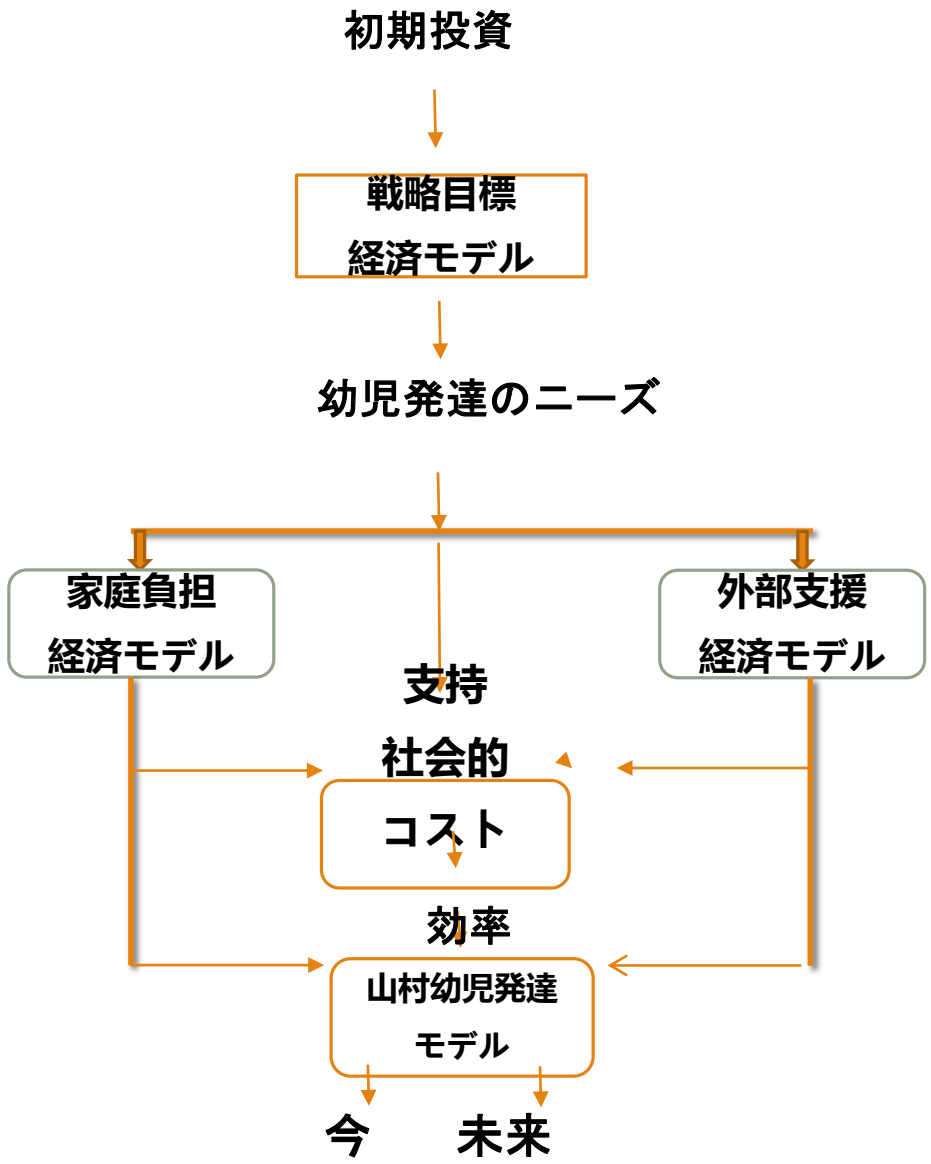


図3　貧困地域の山村幼児園への投資パターン作成の拡大

モデルの説明

初期投資：　投資者は国家財政部、各省の教育庁、熱心な公益の組織や個人；

戦略目標：　広域な貧困地帯の地理、経済、文化の特徴に基づき、児童発達の戦略目標を作成し、管理経済モデルを運営する；

社会的コスト：幼児家庭負担と外部支援；

特に幼児のいる家庭の負担を減少すべき；

広域な貧困地帯の一人当たりの平均年収入が低い（2676元）、国家扶助委員会によると全国平均の50%にすぎない。

希望と夢

教育部、財政部などの政府機関は、「特定貧困扶助」の実施により広域な貧困地帯に重点を置き、村の３～６歳児を対象にすべきである。

広域な貧困地帯における山村幼児園の投資モデルが形成されれば、幼児が自分の村で系統的、適宜な就学前教育を受けることができる。これは、彼らのその時点の発達だけではなく、未来の発達にも積極的な影響を与える。

ご清聴ありがとうございました